

- プログラム概要 : 離島の集落の自然環境と文化を取材し、その価値(宝)が味わえるエコツアーを企画する。
- 実習先 : 鹿児島県徳之島町 下久志集落
- 実習先情報 : 徳之島町は2019年「SDGs未来都市」に選定。2021年には「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」として世界自然遺産登録決定。
- 参加人数 : 10名
- 学部学科 : 幼児教育学科、データサイエンス学科、社会福祉学科、教育学科、環境システム学科、人間科学科、看護学科、建築デザイン学科。
- 実習期間 : 令和4年8月17日～8月27日
- 本学担当教員 : 梅田大輔(客員講師)

■10人で挑んだ、シマの「宝」を見つけ、伝えるプロジェクト

徳之島町には、古来、人が自然と関わり、相互に影響を与え合いながら形成してきた持続的な生活様式が集落(シマ)ごとにある。そこには、サステナブルな社会、幸せのあり方を模索する現代の私たちに多くの示唆をくれるものがあり、次世代への伝承に徳之島町も力を入れている。8年目となる武蔵野大学の徳之島町との連携活動は、今まで以上に集落に深く入り込み、日常の中にある「宝」を見出し、それを体験的に知ることのできるエコツアーのプランニングと実践に挑戦した。

■ INPUT & ACTIVITY 多くの情報収集と体験

[集落について学ぶ 集落歩き]

今回の活動の場となる「下久志(しもくし)」という集落に来て、まず水神様に挨拶をした。水の大切さや自然との共存などについて学んだ。その後、集落の中に入りサンゴの石垣を見たり、ハンタ広場でハンタ石を持ち上げるなど、独自の文化や行事を知った。

[集落の暮らしを学ぶ 6人の方への取材]

下久志集落の人々に「下久志の宝」というテーマで取材を行った。取材という形で集落のコミュニティーの中に入るのは緊張したが、想像よりもフレンドリーなシマの人々から深い話を引き出すことができたと思う。

[海との関わりを学ぶ 磯歩き・追い込み漁見学]

海で磯歩きをした。サンゴの浅瀬を歩き、追い込み漁を見学した。海に飛び込み魚を追い込む漁の様子には漁師の方々の勇ましさを感じ、海の恵みを身近に感じることができた。

[エコツアーについて学ぶ 金見集落エコツアー参加]

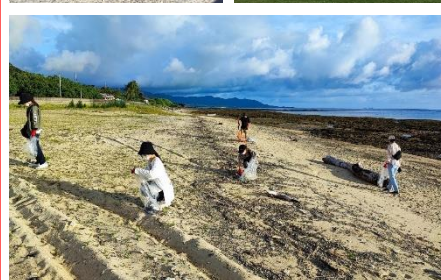
金見集落でのエコツアーに参加した。トゥッカ岩や金見崎ソテツトンネルなどを訪れた。トゥッカ岩は水に岩が反射するのが美しかった。ソテツトンネルは自然の物とは思えないほど綺麗で海岸に出たときの景色は絶景だった。

[徳之島の名所を知る]

島の名所を訪問。はじめに徳之島の伝統である闘牛が行われる闘牛場に行った。そこで稽古をしている闘牛の牛を見学することができ、迫力を感じた。次に訪れた犬田布岬は戦艦大和の慰霊塔があり平和を誓う神聖な場所だった。めがね岩では素晴らしい景色があった。島の魅力を肌で実感できた。

[海岸の漂着物を拾うビーチコーミング]

6時30分から毎朝行ったビーチコーミング。場所によって見つかる漂流物が違ったり、どのように運ばれてきたのか想像もできないような大きな漂流物を見つけたり、発見や驚きにあふれた活動だった。



[マンゴー農家さん訪問]

マンゴーをたくさんいただいた私たちは、3年前のFSで関わりがあった農家の秋本さんにお礼を伝えに行った。新鮮で、口の中でとろける忘れられない味。自然で育った格別な甘さに感動した。一生分のマンゴーを食べさせてもらった。

[クバでかごを編む]

クバの葉を使ったかごの作り方を教えてもらった。時間に限りがあるなか、丁寧に教えていただいた。昔は自然のものを使ってかごをつくったり、傘やうちわの代わりにしていた。ここで学んだ自然の活用を保育に役立てたい。

[貝細作家さん訪問]

親切にも初対面の私たちを家にあげてくださり、今まで集めてきた貝やガラス製のウキ、亀の剥製を見せて下さった。何十年もかけて集めたという部屋を埋め尽くすほどの貝はとても綺麗で、迫力があった。

[水切り大会]

海面に向けて平たい石を投げ、石が水の上を何回跳ねるかを競って遊ぶ「水切り」の仕方を教えてもらい、全員で何回も挑戦した。難しい部分もあったが、回数を重ねるごとに上達していった。活動の空き時間にみんなで始めると、なかなか終わらなくなるほど楽しんでいた。

[廃校になった分校の麒麟のペンキ塗り]

廃校になった分校の校庭にある麒麟の像の塗り替えを集落の方に依頼されて、黄色いペンキ塗りを行った。集落に形に残る貢献ができて嬉しかった。後に集落の子どもたちが模様をつけて完成させるということで、今度完成形を見に行けたらと思う。

[アマミノクロウサギ観察]

徳之島と奄美大島にしか生息していない特別天然記念物、アマミノクロウサギの観察に、夜、山間部の観察小屋付近へ連れて行っていただいた。私たちは運良く、多くのアマミノクロウサギを観察することができた。さらにリュウキュウウコノハズクというフクロウを見ることができ、生物多様性を感じることができた。

[ハブ観察]

徳之島町役場の花徳支所で、捕獲されたハブを見せていただいた。ハブは思ったより小さく可愛かった。しかし口を開いた時の迫力が凄く、野生に出会っても捕まえたくないと思った。

[夜光貝磨き体験]

ヤスリで磨くことで独特の輝きが出てくる「夜光貝」の磨き体験をした。最後に体験型プログラムで思い出に残るいいものをつくれた。直感で選んだ夜光貝が、磨いていくうちにみるみると変化していき、みんな愛着も湧いていった。傷が残ったのもいい思い出となった。



■OUTPUT 価値の言語化・エコツアーの企画と実践

[文字起こし]

集落の方6人への取材は音声を録音しておき、それを分担してすべて文字に書き起こす作業を行った。島の方言や早口のところは聞き取りにくく、何度も聞き直すことになり、思った以上に時間がかかった。取材時間の6倍くらいの時間がかかっていた。大変ではあったが、貴重なお話や生きた言葉を記録することは楽しさも感じた。自分たちの質問の仕方など、取材の未熟な点、良かった点を振り返ることもできた。

[「宝」の言語化 ツアーストーリーを書く]

多くの情報収集をもとに、下久志の「宝」の言語化に取り組んだ。3つの班ごとにコンセプトを検討し、それを表現するスローガンの案出しを行った。同じインプットをしてきたはずなのに、みんなそれぞれ違う言葉になることが楽しく感じた。言葉を考えることは苦手意識があったが、話し合いながら多くの言葉を出し、壁に張り出した言葉は3班合わせて205案に及んだ。そこから班ごとに1つを選び、ツアーストーリーを文章にまとめた。伝えたいことが多く、なるべく短い言葉にまとめることが大変だった。

[エコツアープランをつくる]

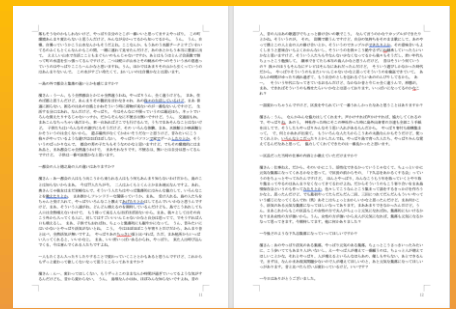
班ごとに考案したコンセプト・ツアーストーリーを、実際のエコツアープランに落とし込むことに取り組んだ。1時間という限られた時間で、どこをどの順番で巡るか、ツアー参加者にどんな説明をするか、どうしたら楽しんでもらえるかなどを検討。場所の下見、集落の方への追加取材、体験プログラムの資料の準備をギリギリまで行った。

[エコツアーガイドとしてツアーを実践]

徳之島町の高岡秀規町長を始めとする町の皆さんにツアー参加者となっていただき、3班がそれぞれエコツアーを実施した。水をテーマに山と海と人の「つながり」を感じてもらえるようにプランしたり、泥だんごづくりやハンタ石を持ち上げる遊びの体験、浜辺の漂着物でアート作品をつくるアクティビティを盛り込むなど、盛りだくさんのツアーとなった。ガイドとなって話すことには緊張したが、自分たちが島で抱いた想いを交えて精一杯伝えた。日差しの強い日だったので、クバの葉でつくった日傘やうちわを参加者に提供するなどの工夫も行った。最後にみんなでツアー参加者と一緒の下久志の民謡を歌うことにも挑戦した(一夜漬けで覚えた民謡はうまく歌えず、集落の方に助けていただいた)。プロのエコツアーガイドのようにには全くなかった反省はあったが、参加者からは「自分たちも知らなかった下久志集落の文化を知ることができた」と評価をいただいた。

[新しいシマ唄の歌詞作成]

帰京後の事後授業で、全ての活動を振り返り、得られた学びや改善点などを話し合った後、下久志集落の未来への持続を願うシマ唄の歌詞を作成した。ポスター化して徳之島町にお送りし、公民館などに掲示いただくことを予定している。



世界の幸せをカタチにする。

■振り返り(実習日誌より抜粋)

○素晴らしい生物多様性と自然環境、それと人々の繋がりがシマの文化を創り出していて、それを体験してアウトプットできたことはなにより楽しかったし、駆け出しとはいえ環境学を学び、活動している自分にとって大きな学びとなった。(大瀧隼平 環境システム1年)

○水があるからこそ、山や海があり、生命の循環があって、今の私達があるということを学んだ。「当たり前ではなく」「それがあってこそ私がある」と常に考えて行動していこうと考えた。(二宮宏斗 社会福祉1年)

○実習の目標は十分に達成できたのではないかと思います。わたしたちの班は、下久志の魅力伝えるには、実際に徳之島の子供になって、実際に肌で感じるのが一番だというコンセプト、考え方でツアーを作った。ツアーをガイドする私たちが一番楽しんで、下久志集落を回ることができたところは今回一番よかったところだと思います。(武藤愛美 データサイエンス1年)

○たくさんの初めてを経験して、帰るのが寂しくてみんなで帰りの船で泣いて、留学した気分にもなれました。同じ日本でもこんなに暮らしが違うということも知れたし、たくさんの人と出会ったことで、視野も広がった気がします。(兒玉芽衣 看護1年)

○エコツアーは、班でやりたかったことを実現することができて、嬉しかったです。講評で島の人では思いつかないツアーで感動したと言ってもらえて頑張ったよかったと思いました。(永山百合 幼児教育1年)

○島の人の話を聴いていて抱えている悩みなどもわかり、どういった課題があるのかもわかりました。人口減少などに、自分達が考えたツアーはそれを解決するのにつながるかわかりませんが、ここでしか見えてこないものはあったと思います。(上村尚史 人間科学1年)

○実習が終わり、何か島に貢献できたことがあるかと考えたとき、自分が島にできたことよりも、持ち帰るもののほうが大きいと感じました。ただ、毎朝行っていたビーチコーミングをはじめ、自分たちの活動は島の方に喜んでいただけて、少しは役に立つことができたのではないかと思います。(神武葵 建築デザイン1年)

○最終的には自分達の理想のエコツアーを完成できて、集落、役場の方もすごく良かった！とおっしゃってくださり、目標達成できました。私たちの班の準備が遅く、ギリギリまでかかってしまったのですが、朝早くから車を出して下さったり、相談に乗ってくださった集落の方々がいたからこそ、ここまでできたのだと思っています。(大橋美空 教育1年)

○いちばん心に残った活動は下久志分校の麒麟の色塗りと磯歩きです。集落という輪の中に入れてもらった感じがして繋がりを感じ、嬉しかったです。磯歩きでは、濱さんが何度もアドバイスをしてくださって人の温かさにも触れました。(渡邊ののこ 幼児教育1年)

○様々な方が何か月も前からプログラムを考えていたとお聞きして、こんなに凝って考えていられたプログラムに参加できてとても光栄だなと感じました。たくさんの方々がいなかったらここまで深く濃いプログラムはなかったと考えると、本当に感謝の言葉しか出てこないです。(北園優香 幼児教育1年)

■担当教員より

知識として学ぶSDGsではなく、小さな集落のサステナブルディベロップメントを微力でも自分たちで考え、やってみることに挑んでみました。何か下久志のためになれないかと考える学生たちに対し、何か学生のためになれないかとサポートに尽力くださる徳之島町の方たちがいてくださり、コロナを経て復活できた合宿型の徳之島FSは、別れ際に涙も溢れるものとなりました。「貢献」はまだできたとは言えませんが、集落の方からいただいた感謝のお言葉が、参加学生の自信の礎になっているのを感じました。徳之島町の皆さんと、頑張ってくれた学生に感謝します。(梅田大輔 客員講師)

■実習先より

数年ぶりに対面型実習を実施でき、オンラインでは伝えきれない徳之島の魅力や人と人の繋がりを肌で感じてほしかったため、集落の中に入り込んで、その集落の伝統や文化、生活などを体験していただくことは、学生にとって貴重な体験になったのではと感じます。色んなことに興味を持ち、集落のために活動する学生たちに集落の方々も大変感謝していました。(西川謙太郎 徳之島町役場)



宝探しのおともは 卵おにぎりとマンゴーで決まり!

徳之島下久志集落は自分らしく私達をギュってしてくれる場所。おぼらだれんが溢れる島では、人に差し伸べる手も、マンゴーを食べる手も自然と出てしまう島の家族になれば優しくと笑顔があまくまに。どこにも負けない人と豊かな自然とのつながり、そこで芽生える結。楽しみだらけの自然の中では毎日が自由研究!

スリルの限界までホレゾ「75キロの石を持ち上げ、キラキラ海の水族館も、ハラハラ山の遊園地も、行く前は、徳之島の空を見上げて星に祈ろう。「ウミガメの産卵とアミノロウサギ見れますように。」恩の数だけ笑顔がある小さな島の大きな宝箱、これぞ下久志集落。

下久志に帰ってきてよかった
ありがとうぎゅう。

シマと私

～帰る場所が下久志にある～

繋がりのシマがここにある。
透き通る海。豊かな緑。そして人の繋がりに。
人とシマと人の繋がりがここにある。
あるものすべてが宝物。ここぞしかない出会いがある。
毎日が天然の水族館、自分で作る自然の遊具、
遊び方は無限大。
人と人との関わりが軽くて幸せ。
シマを愛する人々の記憶と繋がりの物語。
繋がりがシマの宝である。
そしてあはだも繋がりの中に…
人、海、人、山、人、人。あなたの居場所もここにある。
帰る場所が下久志にある。
そうだ。下久志に帰ろう。

ただいま、下久志

START

公民館 (人との繋がりに)

水神様 (水・山との繋がりに)

東郷米販売店 (人との繋がりに)

ハンタ広場 (人との繋がりに)

貝細工の家 (海との繋がりに)

GOAL

十五夜浜 (人・海との繋がりに)

武蔵野大学 徳之島FES Aチーム 大瀬幸平、津邊のこ、児玉若

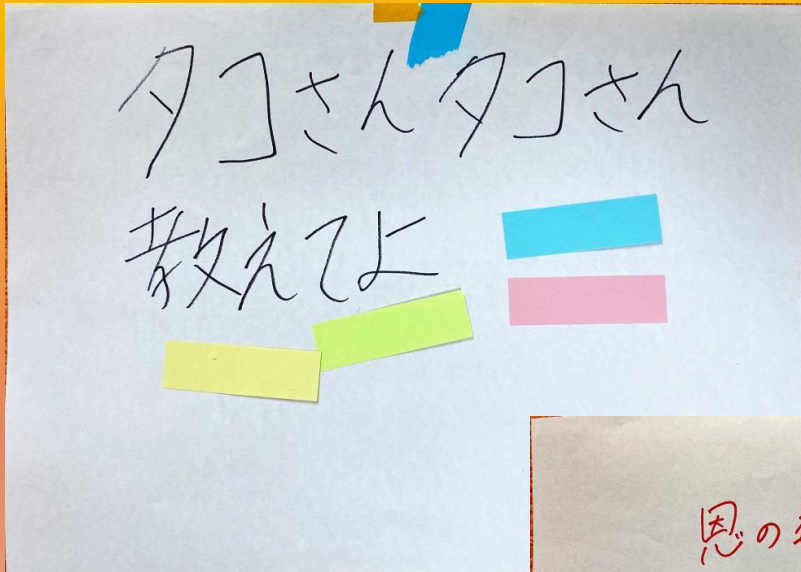
おぼらだれんを胸に

～永遠に繋げ下久志の思い～

ホウはタコ! ここ下久志の人にたくさん捕まえてもらふんだ。だから、下久志のことを教えるよ。ホウは厚アタコなんだ。厚アタコもあって体が赤いんだ。海と水。潮の満ち引きの時に木が割れるよ! ここは島は、生き物がいかに海も川もたくさん名前があるの。

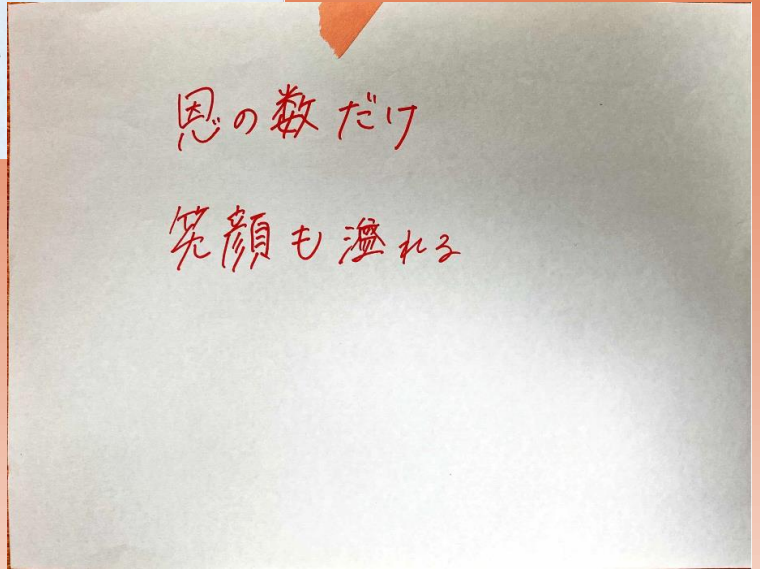
次は陸の話だ。ちよ! ここは水神様という神様と噂いっながりがある。2色んな所に神様が祭。2ある。ちよ。みんなが協力して大事に守。ってるんだ。そんくらゐ大事だし、皆が仲良くじゃないとできないことだわ。他に島には、おいしい果物とかおいしいおウの仲間が居るし、2。っていい所だ。ちよ!

さあここで、人生の夏休みを過ごすよ



ベストコピー賞1

徳之島の中でも下久志の浜は昔からタコがよくとれることから、人と自然のつながりのあり方を「タコさん」に教えてもらうというエコツアーコンセプトを考案。実際のエコツアーでは「タコさん」を生かすことができなかった反省はあったが、言葉のインパクト、企画の視点は高く評価された。



ベストコピー賞2

集落で感じた「つながり」の大事さをより伝わる表現にすることには多くの学生がトライした。それを最も表現できている言葉として、「恩」と「笑顔」を結びつけたこの言葉が選ばれた。

徳之島 下久志 シマ唄
タコさんタコさん教えてよ

作詞：武蔵野大学 徳之島 F.S.2022 チーム
永山百合、武藤愛実、大橋空、北園優香
渡邊のこ、神武菜、見玉芽衣、二宮宏斗
上村尚史、大籠雅平

タコさんタコさん教えてよ
どうして私たちはここに？

美しい空 あおい海

水平線に光る朝日

毎日が天然の水族館 どこでも絶景

優しさに囲まれて

恩の数だけ笑顔も溢れる

あのさみんで海の声聞ここ！

タコさんタコさん教えてよ

どうして君たちは手をつないでる？

すき通る海を泳ぐウミガメ

山を駆けまわるクロウサギ

人と自然もつながる

なほ石のように積み上げた永久の愛は

私たちが見つけた宝物

あのさみんで海の声聞ここ！

タコさんタコさん教えてよ

どうして僕たちの心は温かくなったの？

キリンより大きな思い

分校で芽生える結の心

人と人 人と山 人と海

見つかるここにしかないもの

みんなの居場所

あのさみんで海の声聞ここ！

タコさんタコさん教えてよ

どうしてシマが恋しいの？

オーマイ水神様 深い深い歴史

オーマイ十五夜浜 つらいときは思い出す

オーマイ下久志 たいま お帰りみんな

海も人の心もひろく

私の家族がここにいる

あのさみんで海の声聞ここ！



勝手に作った新しいシマ唄 歌詞 (参加メンバー全員の名前の文字もひそかに歌詞に挿入)